

千年の森便り No.122

2013.11.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

11月17日(日) 晴

参加会員は伊藤、苅米、久我夫妻、坂本、福島、根本、真鍋、宍(ミ)、宮林、村野さん、南房総市の大原則彦さん、東京大学奈良研究室博士課程の賈舒征(ジャー・ジョセイ)さんも参加し総勢13名。色づき始めた秋晴れの森で、10年ぶりのコナラ林伐採更新作業、キノコ観察、クロヤツシロラン探し、野鳥観察など、楽しい一日でした。(真鍋)



宍さん 25 回目の誕生日を祝うポーズ

○森林整備 コナラ林の伐採更新に着手しました。

＜選木＞コナラ林の伐採作業の前段として、選木作業(伐採木を選ぶ作業)を行いました。今回伐採を行うのは、千年広場の東側に当たる2本の歩道に挟まれた約20メートル四方の範囲です。高齢化したコナラ林を、次の世代の若い林に更新することが目的であるため、コナラを主体とする高木層を皆伐するように選木を行いました。

選木した本数は19本、樹種はほとんどがコナラですが、一部エンコウカエデを含み、胸高直径は約15~40cm、樹高は約15~18m(目測)でした。基本的に、2本の歩道に囲まれた範囲のすべての高木を選木しましたが、伐採範囲の中央付近にある胸高直径30cm程度のエンコウカエデ1本は伐採せずに残すことにしました。このエンコウカエデについては、枝張りが小さいことから、将来もそれほど樹冠(葉が着いた部分)は広がらないのではと予想しましたが、さてどうなるでしょうか。伐採後の変化が楽しみです。(福島)



選木状況



小径木の伐採



大径木の伐採

＜伐採作業＞伐採作業は樹齢50年を超えるコナラが中心で、一本たりとも素性の良いものはありませんでしたが、苅米さんの指導の下何とか伐採ができました。

樹高が高く枝葉が上部に繁茂しているので掛木を避けるため、安全重視でロープやチルホールを使用しました。

しかし樹径50cmのコナラは枝振りや重心位置が倒す方向と反対のためチルホールで引きながら作業しましたが計画通りいかず掛木となりました。後日、掛木の解除方法を検討することにしました。ロープ引きでの伐倒方向は目標通りで安全に作業ができました。

大木に果敢に挑戦しましたがヒヤリハット、怪我もなく安全作業ができました。広葉樹の伐採の難しさを身をもって体験させていただきました。皆さんお疲れ様でした。(根本)

豊英島では、島内を巨木林、コナラ林、スタジイ林、景観管理林などに区分し、それぞれの林相に合わせた森林管理（施業）をしています。今回伐採した場所は、計画的に一定面積ずつ伐採して世代交代をするコナラ林と隣接する景観管理林です。

広葉樹林の更新には、かなりの明るさを確保するため一定面積を一度に伐採する必要があります。福島さんに選木を、苅込さん、根本さんに伐採指導をお願いし、参加者全員で力を合わせて取り組み、19本中10本を伐採しました。



無事伐採を終えて一息

伐採地は、貴重なギャップ空間として植栽等は行わず、保護柵を設置してシカの食害を防ぎ、植生の回復・遷移を見守りたい。伐採した丸太は、ホダ木、ログベンチ、階段整備などに有効に利用する予定です。（伊藤）

〇キノコ観察記録 フィールドで観察されたキノコはつぎのとおりです。

アカモミタケ（食）、クリタケ（食）、シロカノシタ（食）、ドクベニタケの仲間（毒）、ナラタケ（食）、ニガクリタケ（毒）、モエギタケ（不明）、フウセンタケ属、ホウキタケの仲間（食）、チャワソウタケ属、不明種2種（宮林）



クリタケ 11/17 賈



ナラタケ 11/17 賈



モエギタケ 11/17 賈

〇野鳥観察記録と動物写真

秋が深まり湖水に鴨の群れが見られるようになりました。

今回の初記録はホシハジロ13羽です。吊り橋を渡る時に発見したのですが、その時は望遠レンズの準備が間に合わず、撮影できませんでしたので、他の作業に優先して集中的に探した結果、午後になってホテイ岬の対岸にいるのを再発見しました。オシドリ29羽、カルガモ10羽もその周囲にいて、いよいよ冬鳥のシーズン到来を実感しました。福島さんは島を出るときにシロハラの声聞いたそうです。これも越冬のために渡来する渡り鳥です。常連の種も加えて今月は合計16種を記録しました。（坂本文雄）



ホシハジロ 11/17 福島



ホシハジロ(手前)とオシドリ 11/17 坂本



杉の皮剥ぐリス 10/21 センサーカメラ

リスは巣作りに杉の樹皮を使います。その材料集めと思われる場面がセンサーカメラに写っていました。

○植物観察調査

開花を終えたクロヤツシロラン株を探し、自生状況を調べました。巨木林保護柵内に多数株（07年保護柵内に14株、08年保護柵内に21株、いずれもクロムヨウラン調査地）見つかりました。隣接する柵外のクロムヨウラン調査地には見つかりません。また巨木林シイタケホダ場近くに数株見つかり、巨木林内に多数株群生している窪地がありました。来年秋の開花時に花探しが容易なよう、GPSにより群生地点を記録し、全株の位置標識のため竹串を刺しました。宍さんはサンプルを採取し研究室で種の確認を行います。（真鍋）



クロヤツシロラン朔果 11/17 賈



ヤブムラサキの実 11/17 宍



サルトリイバラの実 11/17 坂本

巨木林保護柵内のヤブムラサキの実の鮮やかさに宍さんは感動していました。島の西側湖水に面した林縁にはサルトリイバラの実も色づいていました。

豊英島の秋を彩るヤブムラサキ

宍 茹 滢

17日はとてもいい天気でした、鳶も鷺鷥も見えました。クロヤツシロランを探して、コナラ林のあっちこっちにありました。花をこの目で見た事はありませんが、白い綿のようなホコリみたいに小さい種が飛び姿はとてもかわいいです。赤い実色々、クスノキの黒い実、ヤブムラサキの実はとても鮮やかな紫色をしていて、伐採する木が倒れる時に鳴る呼子笛と一緒に豊英島の秋を彩っていました。皆さまから誕生日も祝っていただいて、とても嬉しい一日でした。



森づくり活動に参加して

宮林八男

2011年に入会、キノコ観察会には参加しましたが、森づくり活動は今回が初めてです。持参した手のこぎりでカエデ1本、心をこめて伐採させてもらいました。補助していただいた伊藤さん、皆さん、どうもありがとうございました。このたび伐採作業と直に関わり、これまで森を大事に育ててこられた皆さんに敬意と凄さを感じた次第です。

お知らせ

○12月定例活動日；12月8日日曜日

9時30分、県民の森駐車場集合、ニホンジカ個体数調査、森林整備（伐採の続き、掛かり木の処理、台風26号の倒木処理）、シイタケ食害保護柵、シイタケ古ホダ木処分、野鳥調査など。森林整備に参加の方はヘルメットを持参、着用ください。